

公益財団法人さんりく基金
平成 26 年度第 2 回評議員会 議事録

1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 平成 27 年 2 月 12 日 (木) 午前 11 時 00 分から午前 11 時 45 分
- (2) 場所 岩手県盛岡市内丸 10 番 1 号 岩手県庁 8 階 8-E 会議室

2 評議員の現在数 評議員 7 名

3 出席者

- (1) 評議員 金野 周明 評議員 齋藤 淳夫
 評議員 中居 正剛 評議員 廣田 淳
 評議員 八代 仁 評議員 若崎 正光
- (2) 役員
 業務執行理事 菊池 哲
- (3) 事務局
 事務局長 藤田 芳男 事務局次長 千葉 敬仁
 事務局員 藤原 杏奈 事務局員 川村 泉

4 欠席者

評議員 山口 公正

5 議長

金野 周明

6 決議事項

- 第 1 号議案 議事録署名人の選出について
- 第 2 号議案 平成 27 年度事業計画及び収支予算の承認について

7 議事の経過

午前 11 時 00 分開会した。

菊池業務執行理事が、評議員現在数 7 名中、本人出席 6 名により、定款第 20 条に定める定足数を満たしており、本評議員会は成立した旨を告げた。

続いて、議長である山口評議員が欠席しており、議事進行のため、本日の議長を選出することとなった。外館前評議員の退任に伴い、副議長が空席となっていたことから、副議長の選出を行い、本日は、選出した副議長を議長とすることとした。定款第 16 条第 2 項により、副議長の互選を行うこととし、選出方法を諮ったところ、事務局一任との発言があり、菊池業務執行理事から、副議長に金野評議員の提案があり、異議なく提案どおり決定した。

以降の進行は、議長である金野評議員により進められた。

報告(1)「職務執行の状況について」

議長は、報告を求め、菊池業務執行理事が報告した。

議長が、報告について質問、意見を求めた。

【若崎評議員】

公1の中の「三陸縦貫道路等交通基盤整備後の地域振興策調査」について、今年度の成果はどこにあるのか。また、全体として何年間の計画を考えているのか。

【藤田事務局長】

基金で行っている集落の状況等に関する調査としては、基本的に、26、27年度の実施を考えている。現在、26年度分については、調査継続中であり、今年度はモデル地域として、二戸地域周辺で調査を行っている。沿岸地域は、依然として復旧復興で業務が錯綜しているということもあり、今年度は県北の二戸地域で実施し、来年度は沿岸地域を含む全県調査を行う予定である。

【若崎評議員】

JR山田線が三鉄に移管決定ということで、工事着工もはじまり、同時に道路のネットワークが繋がる。両方をどのように併存させるかということがまさに沿岸地域の重要な柱となるので、調査結果に期待している。

【菊池業務執行理事】

補足であるが、県の県土整備部で、交通ネットワークが整備されることによって交通量がどうなるか、物流がどうなるかという基礎調査を進めている。これはまさに、山田線の関係も含め、鉄道や道路が繋がることによる効果、利用促進のためにどう作戦を練るかという基礎資料となってくるので、連携して進めていきたい。

【八代評議員】

「調査研究事業」は、公募か。単年度の助成であるのか。詳細を教えてください。

【藤田事務局長】

公募を行い、審査委員会で採択を決めている。また、単年度の事業に対する助成である。

【八代評議員】

成果報告は、どのような形で行っているのか。

【藤田事務局長】

他の大学、事業者等への研究成果の波及という点も含め、成果報告会という形で、成果等をプレゼン発表して頂いている。

【八代評議員】

次年度も続くのか。公募の時期はいつごろか。

【藤田事務局長】

次にお諮りいただく来年度事業計画にものせているが、本評議員会で承認いただいた後、公募は2月から3月にかけて募集を行う予定である。

議長が、その他質問、意見を求めたが、特に発言はなく、直ちに議案の審議に入った。

第1号議案「議事録署名人の選出について」

議事録署名人について、議長一任とされたので、議長は齋藤評議員と八代評議員の2名を指名した。

第2号議案「平成27年度事業計画及び収支予算の承認について」

議長は、第2号議案について事務局に説明を求め、藤田事務局長が説明した。

議長が、第2号議案について質問、意見を求めた。

【廣田評議員】

「県北沿岸地域特産品開発事業」の対象経費に追加したという販路開拓にかかる経費は、具体的にどのようなものを想定しているのか。

【藤田事務局長】

商品の販路開拓のため、首都圏でのイベントや物産展等への出展時の旅費への支援が欲しいという声が多くあったので、沿岸部から首都圏への旅費分を想定し、新たに上限を15万円分追加したところ。

【廣田評議員】

被災地の商工会議所の要望を聞いていると、国の事業でも販路開拓の支援事業はあるが、旅費が出ないということで、何とか制度化してほしいという声が出ていた。旅費を対象経費に含めるということは、大いに結構なことである。

【廣田評議員】

事業費の中の負担金（710万円）の内容は何か。

【藤田事務局長】

「民俗・伝統文化等地域資源活用等の調査研究」でイベントの負担金345万円、「青少年等地域学習交流促進事業」で345万円というのが主な内容である。

【廣田評議員】

6ページの財産運用に関して、杜陵信用組合、岩手銀行、盛岡信用金庫の3つの金融機

関を主に使っているようだが、この理由は何か。

【藤田事務局長】

預け入れ先に関しては、自己資本比率やこれまでの実績等を踏まえ県内 5 社に対して入札で決定している。ちなみに、本年 1 月末現在での総資産の預け入れの割合は、盛岡信用金庫約 45%、杜陵信用組約 30%、岩手銀行約 7%となっている。リスク回避のためにも、1つの金融機関に偏らないように、預け入れ割合を鑑みながら、入札で決定している。

【金野評議員】

一番利息が高いところに預け入れを決定しているということか。1年ごとに入札をかけているのか。

【藤田事務局長】

入札の結果、一番利息が高い機関に預け入れている。資産を取崩しながら、事業実施しているので、事業費充当分を勘案し 1 年で組んでいるものが多く、満期が来るごとに入札を実施している。状況によって、2、3年で組んでいるものもある。

【齋藤評議員】

取崩し額の見当を付けて、固まりで長く運用できるものは長く運用してできるだけ利子を多くとるという考え方で対応しているということか。

【藤田事務局長】

その考え方で運用している。

【若崎評議員】

先ほどお聞きしたものと関係するが、公 1 事業の中で、26 年度は「地域振興策調査」ということだったが、27 年度は「集落の状況等に関する調査」となっており、単なるガイドマップやデータベースの作成になってしまわないか。我々が欲しいのは、必要な施策展開のアイデア出しであった。

例えば、道路網がよくなると、盛岡に住んで、週末に沿岸に帰って父母の世話をすることも可能で、人口流出になりかねない。また、通勤圏が広がる一方で、お年寄りの交通弱者への対応はどうするかといった問題。交流人口は増えても滞在人口は増えずにスルーされるといった問題。こういった人口流出に歯止めをかけるためにどうすればいいのか、地域の魅力を持たせ、滞在人口をどのように増やしていくか等といった施策展開のアイデア出しを期待していた。

【菊池業務執行理事】

当初考えたデザインは壮大なテーマであり、さんりく基金だけでやるのは難しいというところもあり、県の復興局、県土整備部と連携してそれぞれ守備範囲を決めながら役割分担をして対応を練っていくことで実施している。

県土整備部では、交通ネットワークの変化等の基礎調査を本年度からはじめており、

復興局でも予測や対応策の調査について県予算をとって実施するところである。それぞれが分担しながら、最後は総合的にシュミレーションと対策につながるよう実施していきたい。その中でさんりく基金としては、地域住民の基礎的部分として集落調査を実施するもの。

議長が他に質問、意見を求めたが、特に発言はなく、第2号議案の賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

議長は、その他質問、意見を求めたが、特に発言はなく終了した。

以上をもって議事の全部の審議及び報告等を終了したので、議長は午前11時45分閉会を宣言した。